

いじめ実態調査の概要

標茶町の各学校では、いじめ根絶に向けて「児童生徒によるいじめ根絶に向けた1学校1運動」や、「標茶町いじめ根絶子ども会議」での取組の交流等により、確実にその成果をあげているところです。また、町内すべての学校においては「学校いじめ防止基本方針」が策定され、それに基づいた組織的ないじめ防止の取組がなされています。「いじめは、どの学校においても起こりうるものである」という考えで、常に未然防止・早期発見・早期対応を心がけることが重要です。町教委では平成19年12月からいじめ実態調査を実施し、その結果の概要についてお知らせしているところです。学校と家庭、そして児童生徒がいじめの問題を考えるための参考にしていただければと思います。なお、本町では教育委員会指導室（015-485-2111内線284）がいじめ等の相談窓口となっております。

調査の目的

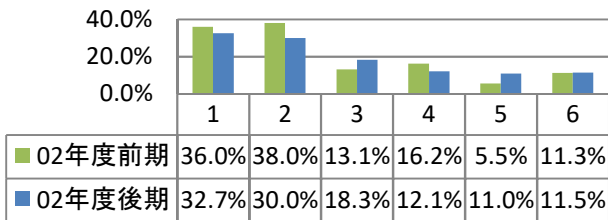
いじめの実態等を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てるとともに、これまでの取組の検証と改善に生かすことを目的として実施しました。

調査対象者と実施方法

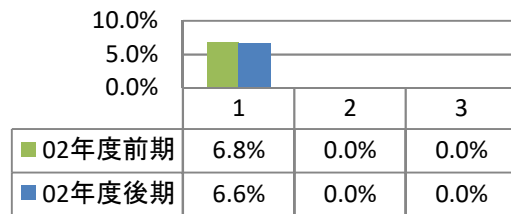
- 調査対象 町内小中学校のすべての児童生徒
- 調査期間 令和2年4月～令和2年10月の状況
- 調査方法 調査用紙により実施
- 回収率 小学校98.6%(359名)
中学校96.5%(187名)

調査項目1 「今年4月から今日(調査時点10月)までに、嫌な思いをしたことがありますか」

嫌な思いをした(小学生)

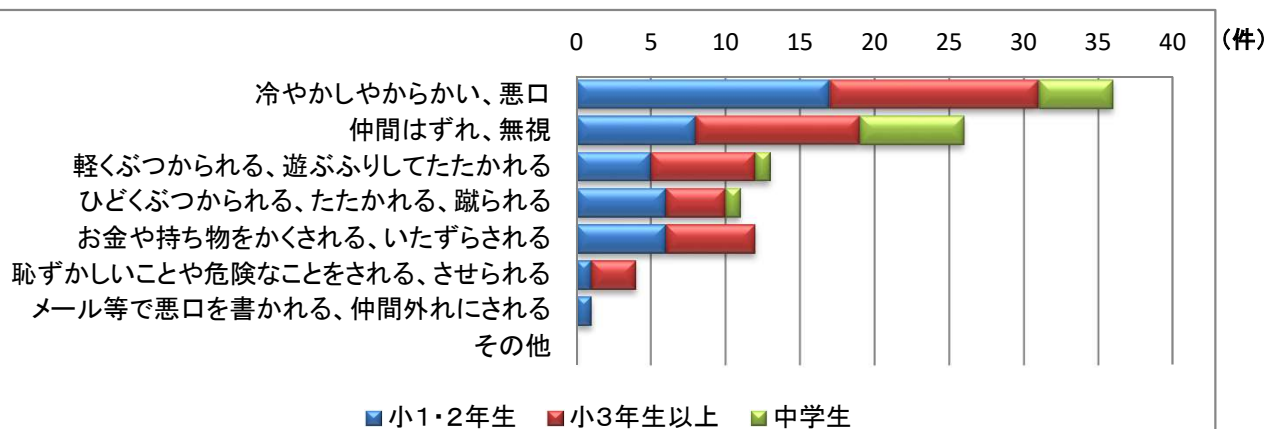


嫌な思いをした(中学生)



◆小学校では3つの学年で、前回7月調査よりも「嫌な思いをした児童」が増加していますが、6月から学校が再開された仲間と過ごす時間も長くなったこと一因と考えられます。しかしながら、各学校は「嫌な思いをした」と回答した児童生徒に対して聞き取りや面談等を通して詳細を把握するなどのケアに細心の注意を払いながら、いじめを防止するために、家庭や地域の協力なしでは効果的取り組みができません。これから学校と家庭・地域のスムーズな連携にご協力いただきますようお願いいたします。

調査項目2 「どんなことをされましたか」(嫌な思いをしたこと)



◆「冷やかしかからかい、悪口」が最も多い回答で「仲間外れ、無視」が続きます。「嫌な思いをしたことがある」と回答した子どもたちから話を聞くと、相手は何気ない気持ちで「冷やかし」たりした行為でも、相手は傷つき嫌な思いをしていることが多いことがわかります。「相手は嫌な思いをしていないか」を考えた行動ができる子どもたちに育つよう、「道徳の時間」を充実させるなど継続的な指導が必要です。また「メールや無料アプリ等での悪口や仲間外れ」にあっていないかどうか、周囲の大人が十分に気を付ける必要があります。各家庭で「ネットトラブル」に巻き込まれないためのルール作りをしていただいているでしょうか。SNS等を介して小中学生が巻き込まれるトラブルや事件も全国的に報道されています。インターネットに関連したいじめにつながるような家庭でも十分に注意を払っていただくようお願いいたします。

調査項目3 「嫌な思いをした時、だれに相談しますか」

小学校

※上段令和2年度前期 下段令和2年度後期

選択肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
学校の先生	28.6%	33.1%	25.0%	27.8%	17.3%	26.2%	
	33.0%	30.0%	33.8%	25.5%	26.8%	20.3%	27.8%
スクールカウンセラー	0.0%	0.7%	2.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.8%
	1.1%	0.0%	2.1%	1.8%	0.6%	1.4%	1.2%
友人	16.0%	13.8%	19.1%	24.1%	30.7%	21.0%	
	13.8%	15.0%	16.2%	25.5%	25.7%	31.9%	22.2%
父や母	34.5%	30.3%	34.2%	33.5%	32.0%	32.9%	
	35.1%	30.8%	30.3%	30.3%	31.8%	31.2%	31.4%
兄弟姉妹	13.4%	16.6%	14.5%	11.4%	13.3%	13.8%	
	13.8%	17.5%	12.0%	12.1%	11.7%	10.9%	12.8%
電話相談	3.4%	2.1%	0.7%	1.3%	0.7%	1.5%	
	3.2%	2.5%	2.1%	1.8%	1.7%	0.0%	1.8%
メールやSNSの相談窓口	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
だれにも相談しない	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	0.0%	1.7%	2.8%	1.2%	1.1%	2.2%	1.6%
その他	0.8%	2.1%	3.3%	0.0%	3.3%	1.9%	
	0.0%	1.7%	0.7%	1.8%	0.6%	2.2%	1.2%

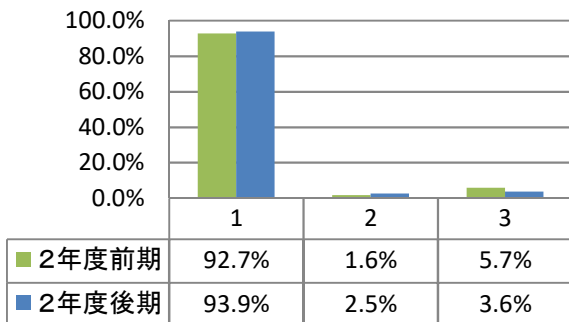
中学校

選択肢	1年	2年	3年	平均
学校の先生	22.0%	20.1%	24.1%	21.7%
	18.1%	23.1%	24.5%	21.9%
スクールカウンセラー	0.8%	2.9%	2.8%	2.2%
	0.0%	1.9%	2.8%	1.5%
友人	26.8%	30.5%	29.6%	29.1%
	28.3%	28.8%	28.3%	28.5%
父や母	34.1%	29.3%	25.9%	29.9%
	32.3%	29.4%	28.3%	30.0%
兄弟姉妹	8.1%	10.3%	12.0%	10.1%
	11.8%	10.0%	6.6%	9.7%
電話相談	0.8%	1.1%	0.0%	0.7%
	0.0%	1.9%	1.9%	1.3%
メールやSNSの相談窓口	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
だれにも相談しない	6.5%	4.0%	5.6%	5.2%
	9.4%	5.0%	4.7%	6.4%
その他	0.8%	1.1%	0.0%	0.7%
	0.0%	0.0%	2.8%	0.8%

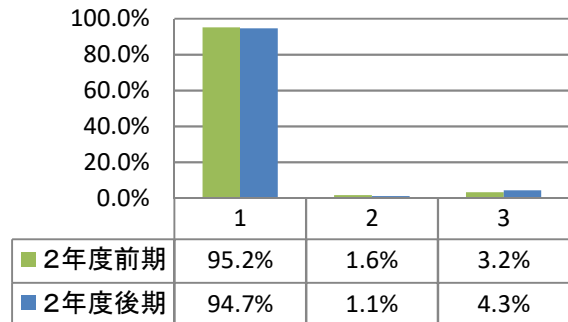
◆今回の調査で気になる点は、「誰にも相談しない」と回答した子どもが小学校・中学校ともに増加していることです。困ったときはSOSを自ら出せることはとても重要です。学校でも指導したり、相談窓口を知らせたりしていますが、各家庭でも「困ったらいつでも相談できる」「安心して相談できる」ような関係作り、雰囲気作りをお願いいたします。学校でも、いつでも相談に乗ることができる体制作りにも努めています。また、スクールカウンセラーが本町に2名配置されています。お子様のことで気になることがあれば気軽に学校に申し出てください。メールや電話での相談窓口についても本リーフレットに記載していますので、誰にも言えずに困ったときは、相談電話に電話する方法があることをお子様と一緒に確認することも大切です。とはいえ、標茶町の子どもたちは「父や母」「友人」「学校の先生」「兄弟姉妹」を相談相手の上位に回答していることからわかる通り「身近な存在の人」を信頼してくれています。教師や保護者等身近な大人がその期待に応えられるよう、親身になって寄り添っていききたいものです。

調査項目4 「あなたは、いじめは どんなことがあっても 許されないことだと思いますか」

いじめはいかなる理由があっても許されない(小学校)



いじめはいかなる理由があっても許されない(中学校)



【選択肢の回答内容】 1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない

◆「そう思う」と答えた児童生徒の割合が小学校では微増、中学校では微減です。標茶町ではこの数値を「100%」にすることを目指しています。今年度行った別の調査の同じ質問では、本町の小学校6年生の「100%」中学校3年生の「98%」が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答しています。「北海道いじめの防止等に関する条例」では「児童生徒は、いかなる理由があってもいじめを行ってはけません」と定められています。「そう思わない」「わからない」と答えた30名程度の児童生徒が「いじめ問題」についての認識を正くもつことができるよう、心の葛藤や迷いに対して丁寧に寄り添い、粘り強く指導を重ねていきたいと思えます。各家庭でもいじめについて正しい認識を子どもたちに伝えていただくようお願いいたします。

「いじめ問題等」電話相談窓口 ※いつでも相談できます

- ・子ども相談支援センター TEL 0120-3882-56 (無料 24時間) doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp
- ・24時間子供SOSダイヤル TEL 0120-0-78310 (無料 24時間)
- ・釧路教育局教育相談電話 TEL 0154-43-1475 (月～金 8:45～17:30)